

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

所属(本学)	大学院 情報理工学研究科 情報環境学専攻		
帰国時の学年	修士 2 年		
留学先国	スイス	留学先大学	スイス連邦工科大学チューリッヒ校
留学期間	2016 年 9 月 1 日～2017 年 2 月 14 日		

① 留学先大学(機関)の概略

ETH はチューリッヒにある世界トップクラスの工科大学です。キャンパスは主に二つあり、Zentrum はチューリッヒ市の中心部にあり、Hönggerberg はチューリッヒ市内の山の頂上にあります。アインシュタインの卒業校でもあります。

② 留学前の準備

私は秋学期、半年間のみでの交換留学であったため、3月から本格的に始まる就職活動に間に合わせることができました。そのため出国前の就職活動は行いませんでした。しかし、留学前にインターンなどに参加することは可能だと思います。

学内要件を満たすための英語のスコアには TOEFL ITP を使いました。TOEFL iBT よりも受験料も安く、リーディングとリスニングのみの試験のため点数が取りやすいです。

③ 留学中の勉学・研究

ETH の交換留学生は1学期間に20単位以上を取得する必要があります。また、取得する単位の3分の2以上は自分が所属する専攻の授業でなければなりません。授業期間とテスト期間があり、テスト期間は1ヶ月以上あります。授業の内容はそこまで難しいとは感じませんでしたが、インプットとアウトプットのすべてを英語で行うという点で難しさを感じました。多くの授業で毎週課題が課されますが、課題提出は基本的に評価に加算されなかったため提出していた人は多くはなかった印象です。そのため授業期間中は生活にもゆとりがあり、週末に遊びに行くこともできました。テストは筆記試験と口頭試験があり、私の場合はすべて筆記試験でした。試験内容は問題量が多く、その場で考えていては時間が足りなくなるような形式でした。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

授業後は食材を買いにスーパーに行ったり、スポーツをしたりしていました。スイスでは外食が非常に高価なため夕食はほとんど自分たちで自炊していました。また、ETH の学生は ASVZ という団体のスポーツプログラムに無料で参加することができるため、放課後にバドミントン教室やエクササイズに行っていました。

週末はよく国内やヨーロッパ諸国に旅行に行っていました。スイスはヨーロッパの中心に位置するため他国へのアクセスもよく、海外に長期間滞在する機会もこれから多くないだろうと思いい積極的に外出していました。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学経験を通して様々な人々と交流したことで世界には様々な文化や考え方が存在することを理解しました。テレビや報道を通してではなく、自ら直接的に異文化に接することができたことは今後将来の知見としてとても重要なものになると感じています。

また、実際に外国で生活することで日本以外の環境で生きていくことができるという自信を持つことができました。わたしはそれまで海外で生活したことがありませんでした。留学の経験したことで、将来のキャリアとして海外で働くという選択肢も持つことができるようになりました。

⑥ 留学費用

渡航費や保険、食費、娯楽などすべてを含めて約100万円かかっています。JASSO から月8万円の奨学金をもらっていました。

航空券は skyscanner という航空券比較サイトで最安のチケットを購入しました。両方共に乗継便を片道ずつ買いました。周りでは日本の航空会社が販売している日程変更可能な往復チケットを購入していた人が多かったです。

毎月の定期的な出費は定期券と家賃でした。定期券は入国後すぐに運賃が半額になるパスと夜の鉄道がすべて乗り放題のパスを3万円ほどで購入しました。そしてチューリッヒのトラムの定期券は月6千円程度でした。家賃は6万円です。

外食はほとんどせず、昼食もサンドイッチを持参して食費を節約していました。食材も物価の安いドイツに頻繁に買い物に行き節約していました。その一方で旅行には頻繁に行っていました。

スイスでは3ヶ月以上滞在する者は保険に加入しなければならないのですが、東工大指定の保険にも加入しなければならないので二重で保険に入ることになります。

⑦ 留学先での住居

交換留学生は WOKO という団体が提供する学生寮に入居することになります。私は Bülachhof という寮に住んでいました。1フラットには4つの個室と2つのバス・トイレ、1つの大きなキッチンとリビングがあり、4人で住んでいました。部屋やキッチンなどの広さは十分あったので困りませんでした。フラットによっては全く片付けをしない住人のせいで苦労したという話もよくあります。私のフラットメイトはみんな社交的でみんな国内旅行に行ったり年越しのパーティをしたりしました。同じ寮の建物には日本人も数人いたので、集まってご飯を一緒に作ることも多かったです。

学校まではトラムを使って15分ほどで、トラムの駅も歩いて3分のところにあります。徒歩圏内にスーパーや中国系のスーパーがあるので買い物も楽でした。冬季は全館に24時間暖房がかかっているため真冬でも室内では薄着で過ごすことができました。また、チューリッヒではゴミ袋が指定されていて有料です。

⑧ 留学先での語学状況

チューリッヒはドイツ語圏ですが、スイス人は英語が使える人が多かったのでドイツ語を使わずとも生活することができます。しかし、役所から送られてくる公的な文書はすべてドイツ語なので、ドイツ語がわかる友人の助けを借りることもありました。学期が始まる前に2週間のドイツ語集中講座があります。この授業では2週間朝から夕方まで毎日ドイツ語を勉強します。2週間でドイツ語が扱えるレベルに達することは難しいですが、初級コースには各国からの留学生が参加しているので友達を作るのにはとても良い機会でした。

ETH では授業はすべて英語で行われます。私が受けた授業は座学ばかりなので英語を話す機会は多くはなかったですが、寮の同居人たちが社交的だったおかげで英語力は向上したと思います。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

ETH で取得した単位はすべて東工大の単位に認定されました。私の場合は東工大の授業との互換は行わず、ETH の単位をそのまま認定してもらおうという形を取りました。在学期間の変更はありませんでした。

⑩ 就職活動

私は留学中に就職活動は行いませんでしたが、友人はボストンキャリアフォーラムに参加して内定を得ていました。私は2月の中旬に帰国したのですが、帰国後は何かと忙しくなるため3月中頃まで就活をする余裕はあまりなく、その点では他の就活生よりも不利になります。しかし、理系学生の留学経験者は珍しいため、留学に行った経験は就活の面接で話のネタに

なり、何かしらプラスポイントになると思います。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

やはり日本の環境から違う環境に飛び込むことで、学業面や生活面、精神面で困ることは少なくありません。日本では簡単にできることが思うようにいかずに不自由を感じることは多かったですが、海外で半年間生活するということはとても貴重な経験でした。むしろ、できることが多すぎて予定に忙殺されていた日本での生活とは対称的に、ゆとりのある時間の中で友人と談笑したり自炊をしたりする時間はとても大切な時間だったと思います。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

私が留学に行った理由は新しい知見を得るとともに、海外で生活する体験をしたかったからです。私は日本で就職する予定ですが、もしいつか海外で働きたいと思ったときに海外生活の経験がなければ、海外で生活するということが全くイメージできず諦めてしまうかもしれません。しかし、どの国であれ海外での生活経験があれば、自分に海外生活が合っているのか合っていないのかわかるとと思います。留学海外に行くことで、旅行で訪れるだけではわからないことがたくさん経験できます。様々なサポートを受けながら海外生活をするのできる経験は学生時代以外に経験できないと思います。

そして留学に行くことで、かけがえのない友人を作ることができます。様々な国から来た学生と話すこともできますし、外国にいれば日本人同士の絆も強くなります。そして彼らと過ごした時間は忘れられないものになると思います。